

令和4・5年度山梨県教育委員会

「高等学校における通級による指導」

実践研究校事業

～特性に応じた効果的な指導が行える通級の継続的な運営～

山梨県立ひばりが丘高等学校

校長 加藤 幸一

担当 渡辺孝太郎（数学）

米山 和成（数学）

川北 理恵（家庭）

新城 美佳（英語）

渡邊浩太郎（英語）

小野 孝（商業）

山梨県富士吉田市上吉田東4-3-1

(TEL) 0555-22-8015

(FAX) 0555-22-8016

I 学校概要（令和5年5月1日現在）

1 課程・学科別、男女別生徒数

部	年次	普通科		情報経理科		合計
		男	女	男	女	
昼間部	1年次	8	10	2	2	22
	2年次	5	6	2	8	21
	3年次	5	5	5	5	20
	4年次	4	4	0	3	11
	合計	22	25	9	18	74
夜間部	1年次	4	2			6
	2年次	1	1			2
	3年次	1	0			1
	4年次	2	1			3
	合計	8	4			12
男女別合計		30	29	9	18	86
学科別合計		59		27		

2 教職員数

職名・教科	常勤	非常勤	通級担当	
校長	1			
副校長	1			
教頭	1			
教諭	国語科	3		
	地歴公民科	2	1	
	数学科	4	1	3(1)※
	理科	2		
	保健体育科	3	1	
	芸術科	0	3※	
	家庭科	2	1	1
	英語科	3	1	2
商業科	5		1	
養護教諭	1			
実習助手	1			
ALT	1			
事務職員	11			

※（ ）内は、うち非常勤数を示す

※ 芸術科は、音楽、美術、書道に各1名

3 教育課程編成状況

(1) 基本となる教育課程

- ・ 本校は、昼間部、夜間部の2部制定時制高校であり、昼間部には普通科と情報経理科、夜間部には普通科を配置している。
- ・ 1日4時間(昼間部は1～4校時、夜間部は7～10校時)の学習で年間19単位(LHRを含まない)を履修・修得し、通常は4年間で卒業(74単位以上修得)できる。
- ・ 共通選択授業(5・6校時)の履修・修得等により、3年間での卒業を目指すことができる。

(2) 特別な教育課程「通級による指導」の設定(R2年度より)

- ・ 学校設定教科【自立活動】 学校設定科目【ライフスキルI・II】として県に申請(以下、「ライフスキル」を「LS」と表記する)
- ・ LSI・IIともに2単位で卒業までに最大4単位(卒業単位に含めることができる)
- ・ 通常の履修科目(19単位)に「加える」形で履修(5・6校時帯に設定)
- ・ 自校通級(本校の2年次以降の生徒のみが受けられる)
- ・ LSIを履修後、次年度にLSIIを履修することができる

例) 令和5年度 昼・夜間部 普通科 2年次 の時間割
 (3年次の卒業を目指す場合の時間割)

部	時間		月	火	水	木	金	年間単位
昼間部	1	10:10~10:55	歴史総合	英語C I	地理総合	家庭総合	体育II	19単位 LHRを除く
	2	11:00~11:45						
	3	12:45~13:30	芸術I	家庭総合	総合的な探究 LHR	英語C I	生物基礎	
	4	13:35~14:20						
	5	14:40~15:25	LS I 自立活動	体育S 読み深める国語 Basic Conversation	/	スポーツ 伝え合う国語	数学探究	~8単位
	6	15:30~16:15						
夜間部	7	16:45~17:30	家庭総合	芸術I	歴史総合	家庭総合	英語C I	19単位 LHRを除く
	8	18:00~18:45						
	9	18:50~19:35	体育	地学基礎	総合的な探究 LHR	英語C I	地理総合	
	10	19:40~20:25						

(3) 特別の指導「自立活動」について

「通級による指導」は、特別支援学校学習指導要領の「自立活動」に相当する指導を行うこととされている。自立活動の内容は、6区分27項目が設定されており、「個別の教育支援計画」等を参考に個々の生徒の状態や発達の程度等に応じて必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を「個別の指導計画」に記し指導に当たる。

(4) 本校の「通級による指導」履修について

ア 履修条件

- ・ 本人並びに保護者の受講希望（「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の作成に同意）があることが前提。次の①または②に該当し、③で認められた生徒。
 - ① 集団行動や対人関係に困り感や不安がある生徒
 - ② 比較的軽度な発達障害を有する生徒
 - ③ 履修者選考会議で「通級による指導」の受講認定を受けた本校生徒
- ・ 原則として本校2年次以上の生徒であること

イ 「通級による指導」履修者選考会議について

次年度に通級による指導を受ける生徒を選考、認定する。必要に応じてSCや校外専門機関、校外専門家からの意見等を選考資料としてまとめている。

(5) 評価と単位認定 (LS I・IIともに2単位で卒業までに最大4単位)

- ・ 個々の特性に対する改善・克服を目標とし、その目標に対し取り組んだ結果・変容を評価とする。

- ・ 年度初めに立てた「個別の指導計画」の目標に対する評価を行い、成績会議において、個々の目標の達成が承認されることで、単位認定とする。

(6) 履修者の卒業までの流れ

生徒の流れ	取り組み概要
履修前	◎通級による指導を始めるための準備期間（アセスメント期間）
	・ 計画的に懇談や気づき調査等を実施し、困り感・課題を抱えている生徒を把握する ・ 本人、保護者との関係づくり、「通級による指導」の理解を促す
通級履修	◎LSⅠ履修（個別指導）
	・ 生徒の特性・課題点を把握し、改善・克服するために指導・支援する ・ 良好な人間関係を築くためのスキルやコミュニケーションスキル等を指導する
	◎LSⅡ履修（小集団指導）
卒業年次	・ 適切な進路選択をするために、生徒に合った職種等を一緒に考える ・ インターンシップを設定する
	◎進路決定に向けて（年次指導）
	・ これまでの通級による指導を踏まえ、進路指導を行う ・ (必要に応じて) 外部機関と連携し、密にしていく

(7) 指導体制

ア 授業形態

複数名の教員で授業を担当するチームティーチングの形態をとっている。役割分担は以下の通り。

C T (チーフティーチャー)	：主として授業を計画、展開する
S T (サブティーチャー)	：生徒の反応を見ながらC Tを補佐、生徒を支援する

イ 授業担当者以外の授業参加

「通級による指導」の周知と今後の体制強化を目的とし、次を実施した。

- ・ 全ての教員が年2回程度、ゲストSTとして授業に参加する機会を設定。
- ・ LS授業時間に担当以外の教員と関わる活動を設定（LSⅠ：インタビュー、LSⅡ：模擬飲食店運営）。

(8) 指導内容（一律の年間授業計画）

通級による指導は、生徒一人ひとりの実態に合わせて指導内容を計画・実践していくことが大前提であるが、全体指導が中心の高等学校において、生徒一人ひとりに対して指導内容を組み立てていくことは、通級開講当初は体制上難しかった。また、通級開始年度以前から本校に在籍している生徒の教育的ニーズは、「学習支援」ではなく、「卒業後の進路を見据えた特性などの自己理解や友人・教師とのやりとり」などが多く挙げられている。

そこで、履修者全員に対して同様の授業展開をするような授業計画のモデルを令和2・3年度より作成・実践を行ってきた。自立活動の内容6区分27項目（学習指導要

領「自立活動」より)に基づき、本校生徒全体の実態に合わせて特に、②心理的な安定、③人間関係の形成、⑥コミュニケーションの区分に重点を置いている。

【R2・3年度作成 年間授業計画の抜粋内容】

LS I (個別指導)		LS II (小集団指導)	
目標	ア 自分の特性を把握する イ 落ち着いた情緒で生活するための基礎をつくる	目標	ア 社会性の向上を図る イ 協働する意識を高める
年度、学期はじめ・おわり		年度、学期はじめ・おわり	
ライフスキルの概要・面談		LS IIの説明・自己理解	
ゲームを通して、相手の気持ちを考える。		ゲームをから学ぶ・自己理解	
関係を深めよう		1年間を振り返る・今後の目標	
1学期の振り返り・夏休みの計画を立てる		自己を理解する	
夏休みの反省		自分の行動を分析する	
2学期の振り返り・冬休みの計画を立てる		自分の行動を意識する	
冬休みの反省		自己の短所への向き合い方	
LS II 見学		話し合い	
1年間を振り返る・今後の目標		なぜ働くのか？(KJ法)	
話すスキル		臨機応変な対応	
あいさつ・自己紹介の型		リスクマネジメント・事態の蓄積	
相手に詳しく伝える(伝言ブロック)		作業学習	
文字での会話(スマホ・SNSを用いる)		出退勤の練習・日誌の書き方	
ポジティブな言葉への言い換え		作業学習(事務作業)	
聴くスキル		作業学習(サービス業)	
聴くスキル 5つのポイントを知る		決まり文句	
5 W1Hを知る 質問(会話)の練習		インターンシップ	
パーソナルスペース		インターンシップ事前学習	
感情理解・整理		インターンシップ	
ストレスの概要とストレス対処法の紹介		インターンシップ事後学習	
複雑な感情			
自分の気持ちを把握する(アンガーマネジメント)			
ストレッサー(ストレス要因)(認知を変える)			
職員室インタビュー(気持ちの切り替え方について)			
臨機応変な対応			
対処するスキル (事例に対して、対処を複数考え、適切な対処を選択)			
職業体験			
作業体験を通して、仕事の2つのポイントを学ぶ (早さ・丁寧さ)			
ルールとマナーの概要			
様々な職業を知る			
職業体験①(接客体験)			
職業体験②(困ったときの対応)			
職業体験③(①・②のまとめ)			
生活基礎			
自分にかかるお金(名称・貯金)			
課題対応能力(お金にまつわる騙されない力)			
生活と健康(家事の種類学習)			

II 研究成果の要旨

1 研究のねらい

現在、本校を含め、定時制・通信制高校は、小・中学校時代に環境に適応できなかった生徒たちの学び直しの場合としての役割がより求められるようになってきている。発達障害を有する生徒や不登校経験者の割合は年々増加傾向にあり、人間関係を構築する力やコミュニケーション力に課題のある生徒の数が増えているように感じる。個々の生徒の実態が異なるため、全体指導だけではなく個別に対応することが必要となっている。今後、こうした生徒の顕在化が一層進むことが想定されるため、より組織的・長期的な指導の在り方を構築していく必要がある。

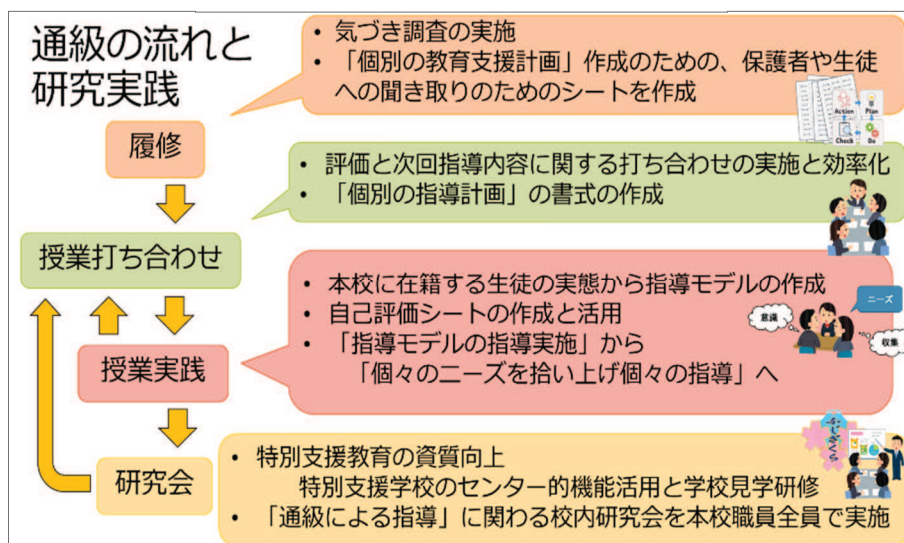
本校では、令和2年度より通級による指導を開始した。併せて山梨県教育委員会「高等学校における通級による指導」実践研究校事業の研究指定校として、通級による指導の実践・研究を令和2・3年度、令和4・5年度に渡って行ってきた。

令和4年度は、本校の体制状況から個々の生徒の実態に合わせて指導ができるように、実態把握のツール、手立ての蓄積、評価の仕方などを主眼に置き、今後の校内体制や構成人員が変わったとしても継続して指導を行うことができる仕組みづくりをねらいとした。そのためのツールを作成し、通級担当や年次職員との切れ目ない連携ができればと考えた。

令和5年度は、令和2・3年度に作成した授業のモデルとなる年間指導計画に沿って一律の内容で個別の指導に取り組んできたが、一律の計画に捉われない本来の通級を目指すために、個々に合わせた指導内容の設定、実施に向けて事例研究を行った。

この研究を通して、個々の特性に応じた今後の特別支援教育の拡充と継続性をより深化させ、本校の教育全般に特別支援教育を浸透させていくことができると考えている。

【R4・5年度 研究概要図】



2 研究体制・組織

(1) 授業・研究担当者

教科指導を主に担当し、「通級による指導」を兼務している。中には、担任をしている教員もいる（特別支援学校からの交流人事による2名を含む）。

(参考) 令和5年度「通級による指導」担当者概要

教科	担当(所属)	備考
数学	年次所属、通級リーダー、特別支援教育コーディネーター	特別支援学校より異動
数学	年次担任	
数学	非常勤講師	
家庭	年次副担任、特別支援教育コーディネーター	特別支援学校より異動
英語	年次所属、保健相談主任	
英語	教務主任	
商業	年次担任	


(2) 令和5年度LS担当者年間予定

時期	内容	※ これとは別に授業の打ち合わせを毎週実施している
4月	係打ち合わせ(1)	業務、役割、年間予定の確認、自立活動・指導方法などの確認
	生徒支援研究会	生徒の情報共有(「個別の教育支援計画」の一部内容を提示)
	「通級による指導」研究会	【説明】本校職員へ「通級による指導」の概要の説明
	運営委員会・職員会議	「通級による指導」の今年度の取り組みの説明
	「通級による指導」開始	授業の打ち合わせを毎週実施
5月	「個別の指導計画」作成	「個別の教育支援計画」や生徒との関わりを基に1学期目標の立案
	運営委員会・職員会議	年間授業計画・個別の指導計画・授業参加スケジュール 提示
6月	係打ち合わせ(2)	気づき調査、インターンシップ、「個別の指導計画」の確認
	インターンシップ準備	企業との打ち合わせ
	運営委員会・職員会議	気づき調査の実施と依頼(①教科担当、②年次職員) インターンシップ受け入れ企業の報告
	「通級による指導」研究会 「個別の指導計画」作成	【事例検討】本校通級で大事にしていきたいこと 1学期評価、2・3学期目標の立案
7月	三者懇談	「通級による指導」についての通知を1・2年次生を中心に配付 通級の説明と履修希望を募るよう年次職員に依頼
	インターンシップ事前挨拶	生徒を引率し、事前挨拶を行う
8月	インターンシップ(1期)	事前学習・巡回指導・事後学習
	係打ち合わせ(3)	新規LS希望者懇談、インターンシップについて
	「通級による指導」報告会 「通級による指導」研究会	1学期の評価・授業実施報告、気づき調査結果報告 【事例検討】ラポールの形成、教材研究、実態把握
10月	係打ち合わせ(4)	新規LS希望者進捗状況、インターンシップ、支援委員会について
	運営委員会・職員会議 「通級による指導」研究会	インターンシップ(1期)の報告 【事例検討】ある生徒の特性を体験
11月	運営委員会・職員会議	インターンシップ(2期)受け入れ企業の報告
	三者懇談	「通級による指導」についての通知を1・2年次生を中心に配付 通級の説明と履修希望を募るよう年次職員に依頼
12月	係打ち合わせ(5)	新規LS希望者進捗状況、インターンシップ、支援委員会について

	面談・授業見学 (履修希望生徒・保護者 対象)～1月	担任と連携し実施、生徒に関する細かな情報についての聞き取り 「個別の教育支援計画」作成を担当に依頼
	インターンシップ(2期)	事前指導・巡回指導・事後指導
1月	係打ち合わせ(6)	新規LS希望者懇談
	運営委員会・職員会議	インターンシップ(2期)の報告
	「個別の指導計画」作成	2・3学期評価、年間評価の立案
	「通級による指導」研究会	年間授業・研究実施報告
2月	研究報成果告会	研究成果の報告
	選考会議	次年度履修者決定
	面談(次年度新規履修者)	以下を担当に依頼 「通級による指導」の履修の可否を連絡 「個別の教育支援計画」の次年度の目標の確認
	成績会議 単位・卒業認定会議	年間評価(個別の指導計画)を伝え、単位の修得を議する
3月	面談(今年度履修者)	以下を担当に依頼 「通級による指導」の年間評価と単位修得の可否を連絡 「個別の教育支援計画」の評価と次年度の目標、加除訂正等の確認
	係打ち合わせ(7)	今年度の反省と次年度の方向性

(3) 「通級による指導」研究会の実施

「通級による指導」の担当は、特別支援学校教諭免許の有無を問わないため、「通級による指導」の周知と今後の校内体制強化を目的とし、令和5年度は、「通級による指導研究会」を年間5回計画し、授業担当者だけでなく、本校職員全員で研究に取り組んだ。6月(第2回)、10月(第4回)の研究会においては、県教育委員会指導主事、相談支援センター指導主事、近隣の「通級による指導」設置学校の担当者の参加をお願いした。

回	内容・形態	概要
1	説明・研修	本校「通級による指導」の概要説明
2	事例検討 グループ協議 (KJ法)	<p>【テーマ】 ある生徒の指導を通して、本校の「通級による指導」で大切にしていきたいこと</p> <p>【概要】 「発言が少ない生徒への一律の年間授業計画の内容での指導」の課題を提案し、グループ協議を行った。本校通級には、「安心できる環境づくり」「ニーズを把握すること」「新たな指導内容や手立て」が必要ではないかという意見が多く出た。</p>
		

3 研究実践の内容と成果

(1) 履修に関わる研究

ア 「気づき調査」の実施

生徒一人ひとりの特性や実態を把握するために、日常生活に対する困難さを見極めるための「人間関係面」「行動面」「学習面」の3分野と「長所」に関する質問項目を示した調査表を作成した。質問項目については、文献等を参考に改訂を行い、現在85項目で構成されている。

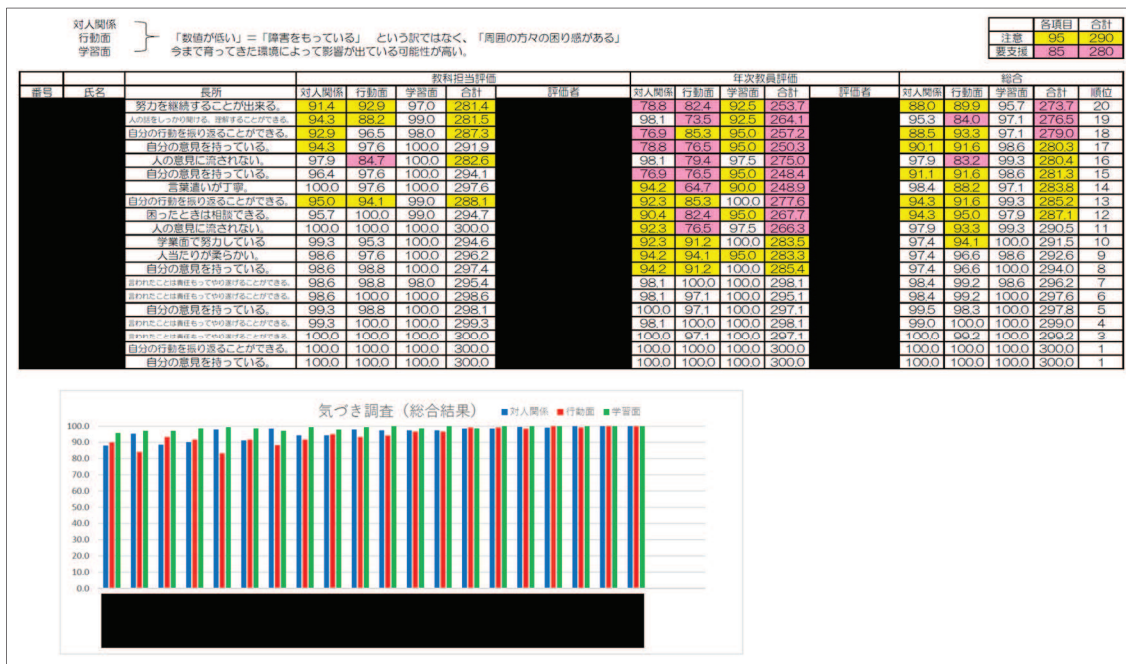
1・2年次生を対象に、日頃生徒と接している年次担当や教科担当の教員に調査を依頼した。

気づき調査 (ひばりが丘高等学校)				別				
				習修 太郎		年次		
領域	小領域	項目	解説(例)	国語総合	数学I	地理A	年次1	年次2
対人関係	雰囲気	表情の変化が乏しい	笑顔になったり、怒ったりした顔になったり感情の表出が乏しい。	○	○	○		○
		話をしているときに視線が合わない	話をしているときに視線が合わない。					
		独特な雰囲気がある	声・目つき・表情・姿勢等に独特なところがある。	○	○			
	他者への気持ち	相手の気持ちを察して行動することが難しい	相手がどのような気持ちになるか想像できず、困惑したり傷ついたりするような言動を起こしてしまう。	○	○	○	○	○
		他者の気持ちに共感できない	友達の良いところや考えが、羨しき辛さなどを共有できない。	○	○	○		○
		集中して話を聞くことができない。	「相槌」「うなずき」といった相手に共感する動作が少ない。		○	○	○	○
	やりとり	非言語コミュニケーションを理解できない	身振り・ジェスチャー・目くばせ等、言葉発しないコミュニケーションを理解することが難しい。		○	○		○
		冗談が通じない	言葉通りの理解をするため、含みのある言葉、皮肉、嫌み等を理解できない。	○		○		○
		堅苦しい話し方をする	会話の仕方が形式的なため、話し方に抑揚がなく、相手との間合いを取ることができない。					
		人によって話し方を変えることができない	状況や相手に応じた言葉遣いができない、丁寧すぎる、敬語を使うことができない等。					
		自分の思いを押し通しがち	承認欲求が強く、周りの友人に対して強く自己主張をする。また承認を得られないことにストレスを感じやすい。	○				○
		自分の話ばかりして、他者の話に興味がない	自分の好きなことはとめどなく話すが、その時の相手の気持ちを考えることが難しい。					○
	集団参加	自分の考えに合わない人は「悪者扱い」する	排他的な考え方をする傾向がある(気に入らないものや人を排除したい気持ちが強い)。「しょうがない」があまり通用しない。			○		○
		集団の中にいることが好まない	大勢のいる環境に耐えられず、集団での活動や集会を避ける傾向がある。	○				
		自分から人に話しかけない	友達との関係を自ら築こうとはしない。	○		○	○	○
		一人であることが多く、友達づくりが苦手	友達と仲良くしたいが、自分から関係を築けない。または、築き方が分からない。		○			○
		他者への関心が薄い	友達と同じ教室等においても、一緒に遊んだり活動したりすることはない。					
		集団活動に参加すると寝るようだ	周囲と協力することやグループで活動することに抵抗がある。	○		○	○	○
	読み取る	問いかけに適切に答えることが難しい	物事の原因と結果を理解する力が弱い。「○○したらどうなる?」「なんで~なった?」などの問いかけに適切に答えることが難しい。		○			○
文章を大まかに捉えることができない		文脈から、文全体(または段落)の意味を理解することが苦手である。どちらかという点と線で見て理解できそう。		○	○			
登場人物の心情を読み取れない		文章を読み、主人公の心情を推察することが難しい。心情を表す行動や様子の文を抜き取ることができない。	○				○	
抽象的な文を理解することが難しい。		「あれ」「この」「それら」など指示語の内容を読み取れないなど。		○	○	○		
長所	悪いところばかりでなく良いところも考えてください。長所を生かす指導を意識して生徒と関わってください。							
	自分の意見を持っている。							○
	困ったときは相談できる。			○				
	人の意見に流されない。					○		
	自分の行動を振り返ることができる。							
	言われたことは責任もってやり遂げることができる。							
	やるべき時にきちんと出来る。							
	努力を継続することが出来る。				○		○	○
	学業面で努力している							
	何事にも集中力があり、メリハリを付けられる。							
	計画的に行動ができる。			○	○		○	
	人の話をしっかり聞ける。理解することができる。							
	疑問な点に気付き、質問することができる。							
	人当たりが柔らかない。						○	
	言葉遣いが丁寧。			○				
大切な人への思い遣りがある。						○		
誰とでも気軽に接する。							○	
周囲の人に気遣い出来る。								
素直に謝ることができる。								
相手の立場を考えた言動ができる。						○		
興味の幅が広い。								
興味があることに対して詳しい。								
夢がある。								○

【気づき調査 調査シート】

調査結果（教師による生徒の困難さへの気づき）を数値として見える形で提示し、HRや教科における指導の改善やより相応しい指導の提案やLSの履修につなげるための指標として活用している。

実施4年目となり、教員の気づきが増えてきている。この調査によって、教員全体が生徒の困り感を感じ取るために積極的に生徒を観察していることが窺える。



【気づき調査 結果表】

イ 生徒・保護者の面談（聞き取り）用シートを用いた個別の教育支援計画の作成

通級による指導を受ける場合は、小・中学校と同様に「個別の教育支援計画」を作成している。担任が特別支援教育コーディネーターに相談しながら作成することになっているが、初めて作成する先生方が多く、負担が大きいことが実態であった（現在も同様である）。

そこで、右の面談用シートを活用し、どのような躓きがあるか、特性に関する内容や幼少期の様子について項目に沿って聞き取り、課題や困り感となっていたことを、これまでよりも客観的に見ることができるようにした。なお、聞き取る項目を「生徒と保護者」「保護者のみ」に分け、チェックリストで明確にした。この面談シートをもとに「個別の教育支援計画」を作成している。

個別の教育支援計画・個別の指導計画 作成のための聞き取りシート

1 面談日程（ライフスキル新規履修の場合は12～1月頃）

①（保護者／本人 教員） → 生徒が認識している困り感を中心に
②（保護者 教員） → 保護者が認識している生徒の支援に関わる経歴・特性について

2 ①の面談の内容

個別の教育支援計画・個別の指導計画の説明
 個別の教育支援計画B票（表）に関する内容
・家庭生活で気になること（健康面、心理面、対人関係等）【本人・保護者から聞く】
・学校生活で気になること（学習面、身体の動き等）【学年次教員から】

※ 保護者から「2回目の面談の内容（生育歴等）」について話が出た場合は、それも聞き取る

3 ②の面談の内容

個別の教育支援計画・個別の指導計画の同意についての説明（同意書）
 個別の教育支援計画A票に関する聞き取り（生育歴、診断名、WISC等の検査歴、服薬状況）
 検査や手帳（療育・精神保健福祉）の取得に関する説明と同意

4 その他（ライフスキル履修に関して）

ライフスキルの授業内容に関する説明
 本人・保護者のライフスキル履修希望の有無
（可能であれば）授業見学を勧める（難しい場合は動画視聴も可）
 履修は、2月中旬の選考会議で決まることを伝える。

【聞き取りシート（抜粋）】

ウ 総合教育センター（相談支援センター）との連携

生徒が知能・心理検査を受けることを履修の際に依頼し（強制ではなく、任意）、検査結果を個別の教育支援計画作成の参考とし、情報を共有することで有効な支援策を講じることができている。

エ 「（「通級による指導」における）個別の指導計画」の書式検討

- 「個別の教育支援計画」の目標と自立活動6区分を関連づけ、通級による指導で取り組む目標及び手立て、評価を付けて記載できるよう書式を変更した。
- 生徒のニーズの変化に対応できるように、年間の評価だけでなく、前期評価、後期評価を行う書式とした。

令和 ○ 年度 山梨県立ひばりが丘高等学校		科目（単位数） ライフスキルⅠ（2単位）		
個別の指導計画【自立活動】				
目標・評価様式		作成日 令和 ○年 ○月 ○日		
クラス	2D	ひばり たらう	担当	
番号	40番	氏名 雲雀 太郎	作成者 ああ あああ	
＜目標・評価＞				
年間目標（個別の教育支援計画B票短期目標より）				
① 日常生活における行動に対する見通しを持ち、時間通りに行動することができる。				
② 自己理解を深めながら、自分の気持ちを特定の人に伝えられる経験を積む。				
授業内における「目標と手立て」・「評価と課題」				
1学期	自立活動6区分	<input type="checkbox"/> 半期目標 ・目標に対する手立て、配慮（支援）	実施題材	詳細（○評価 ●課題）
	① 心理的不安定	環境の把握 <input type="checkbox"/> 自分を客観的にとらえ、自分の課題を整理することができる。 フリートーク等で自分の話をする時間を確保することで、本音で話してもよい場所であると思えるようにする。	話すスキル 聴くスキル 心理状況と生活リズム	○発言をホワイトボードにまとめ、視覚的にしたことで、生徒自身の考えを生徒が把握することができた。 ○「周囲の目が気になる」「失敗してしまった時の立ち回りに時間がかかる」「思っている活動では集中が足りない」など生徒自身新たな発見をすることができた。 ●あまり深く考えたり、思い出したりする様子なく、その場で考えたことを言ってしまう様子が見られる。忘れやすい傾向にあるため、教師側が伝えたいことは繰り返し伝えるようにしていく。
	② 心理的不安定	コミュニケーション <input type="checkbox"/> 話すスキル、聴くスキルといった授業を通して学んだ内容を踏まえ、自分の現在地（コミュニケーションの課題等）を知ることができる。 ・授業に取り組む様子を伝え、客観的にできているところ、難しいところをフィードバックさせていく。		●相手に説明する際、言葉が足りないことがある。しかし、本人はそのことにあまり自覚している様子がない。異なる状況においても同じ様子が見られている。 ●小さな失敗には意識が湧いておらず、その積み重ねで起きる大きな失敗には気づくようである。適宜フィードバックを行い、具体的な改善を一緒に考えていく。
その他				
2・3学期	自立活動6区分	<input type="checkbox"/> 半期目標 ・目標に対する手立て、配慮（支援）	実施題材	詳細（○評価 ●課題）
	① 心理的不安定	○ポジティブな気持ちの捉え方を学び、気持ちの切り替え方を身に付ける。 ・悪いことが起きてしまった時の物事の考えを様々な角度から見られるようヒントを与えていく。 ・生徒の発言をホワイトボードにまとめ、視覚化する。 ・教師側が伝えたいことは繰り返し伝えるようにしていく。	心理状況と生活リズム 気持ちの切り替え 対処法	○フリートークでの話において、時間の管理が課題であることを理解することができた。 ○時間の管理の学習では、絵を用いた説明を聞くことで場面をイメージすることができ、到着目標時刻から逆算を用いて行動を設定することができた。 ●「登校する日にもし寝坊してしまったら」という質問には、「気持ちを切り替えられず、学校に行けないことが多い」という発言があった。気持ちの切り替えができるよう学習を深められると良い。
	② 心理的不安定	コミュニケーション <input type="checkbox"/> ストレスマネジメントや職業体験を通して、苦手とすること、できることの理解を深めることができる。 ・生徒に話す機会を設け、感じたことを言語化させる。 ・適宜フィードバックを行い、具体的な改善を一緒に考えていく。	自分のことを伝えよう 時間の管理 感情に関わる言葉	○2択を導くような質問であると何も考えず、発言している様子であったので、抽象的な質問を行うことで、自分自身で言葉を考え、発することができた。 ●気持ちを表す言葉を多く知っておらず、ある状況における登場人物の感情を語る演習では、意味を理解しないまま、書いている様子が見られた。感情の言葉を覚えることで、自分自身の気持ちの整理につながる。様々な活動を通して、他者と感情を共有し合える体験を多く積んでいくと良い。
その他				
年間評価（これを個別の教育支援計画B票①評価の参考とする）				
① 開かれたことに対して十分に理解できていないことや聞いたことを記憶に留めること、趣味の時間の使い方などに課題があることに気付くことができた。自分の行動を振り返り、今後はメモを取ることで計画を立てて実行することなどを通して時間通りに行動できる体験を積み、スモールステップを通して、実行機能の向上を図っていく必要がある。				
② その場しのぎの発言も見られているが、教師が代弁したり、本人が話したことを文字化したりすることで、「周囲の目を気にする」「時間の管理」「失敗すると立ち回るのが時間がかかる」などの課題を発言し、理解できつつある。これらの課題に次年度も取り組んだり、相談したりすることで自分の気持ちを特定の人に伝えられる経験をこれからも積んでいくと良い。				
年間欠課時数		2	単位修得の可否	
			○ ・ 否	

【個別の指導計画】

(2) 指導に関わる研究

ア 指導体制の検討（基本は個別指導）

生徒のニーズ「同級生と関わりをもちたい」や生徒の実態「同級生同士のモデリングが良い刺激になること」から、個別指導ではなく、1パートに2名の生徒がいる環境も設定した。当初は、お互いに相手の様子を探りながらの関わりだったが、次第に打ち解け、生徒同士で意見交換をするような姿も見られた。最終的には教員を介さなくても話すようになり、この授業を楽しみにしている様子も窺えた。

【R4年度指導体制】 履修者数 LS I：5名 LS II：2名（計7名）

	月	火	水	木	金
科目名 生徒 指導体制	LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名	LS II 生徒 2名 CT 1名 ST 1名	/	LS I 生徒 2名 CT 2名 ST 2名	/
	LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名			LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名	

↑ 活動内容に応じて個別に分けている

【R5年度指導体制】 履修者数 LS I：5名 LS II：4名（計9名）

	月	火	水	木	金
科目名 生徒 指導体制	LS II 生徒 4名 CT 1名 ST 2名	LS I 生徒 2名 CT 2名 ST 2名	/	LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名	LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名
				LS I 生徒 1名 CT 1名 ST 1名	

↑ 活動内容に応じて個別に分けている

イ 指導内容の検討（評価・指導の見直しについて）

年間授業計画・学習指導案、生徒の様子などをもとに、授業打ち合わせや授業実践を行い、また特別支援学校との連携を深めることで自立活動の指導力向上を図ってきた。

a 生徒に応じた手立て（事前打ち合わせと個々の指導の実施）

対象生徒は、異なる特性をもち、比較的軽度な発達障害を有する者からグレーゾーンと呼ばれる知能指数を有している者もいる。そのため、授業前の打ち合わせを実施し、授業担当者全員で履修者全員の指導方法等を検討・修正し、適切な指導・手立てや配慮を検討している。時間はかかるが、個々に合わせる指導向上につながっている。

b ICT を活用した情報の整理（打ち合わせ記録）

個々の評価や次回の授業の目標を記した。生徒一人ひとりに対する手立ての引き出しを増やし、個別の指導計画作成や修正のための参考資料としている。毎授業後に ST が入力し、これらを蓄積したものを学期毎に集計することで、年間を通しての評価が容易になった。毎時間の入力は根気のいる作業だが、こういった積み上げから、本校の「通級による指導」の今後の体制の幅を広げていきたい。

U12		・ある事象に対して、生徒の考え方はネガティブに考えることが多かったので、					
A	B	T	U	V	W		
1	指導の記録	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>各授業において（箇条書き）</p> <p>上段（○生徒の目標）</p> <p>中段（・教師の手立て）</p> <p>下段（・生徒の様子と特記事項）</p> </div>					
2							
3							
4							
5							
6	氏名		16	17			
10		○「はあ」というゲームを通して、相手の様子を見て、感情を読み取ることができる。 ○ストレス対処法として、認知を変えることを知る。	○ゲームを「オノマトペカード」を通して、相手の様子を見て、感情を読み取ることができる。 ○ストレス対処法として、認知を変えることを知る。	○集団活動を通して、学習したことを発揮することができる。 ○認知という言葉を知り、出来事に対して様々な考え方があることを知るができる。	○ゲームを通して、楽しい雰囲気から、適切な言葉が発信する。 ○集団活動を通して、どのようなか、整理することができる ○ストレス対処法として、認知を		
11	LSI	・ネガティブな言葉を別の言葉で言ってみる。 ・感情の種類を考えてみる。	・教師自身がゲームを楽しみ、楽しい雰囲気づくりを行う。 ・生徒だけの意見にとらわれないよう教師の意見を提示し、多様な考え方があることを伝えていく。	・違った環境でも楽しくできるように、雰囲気作りを意識する。 ・教員や同年代の考えを聞き、知識を広げ深めるよう促す。	・教師自身がゲームを楽しみ、雰囲気づくりを行う。 ・生徒だけの意見にとらわれない意見を提示し、多様な考え方があえていく。		
12		・ある事象に対して、様々な考え方があり、具体的な例を伝えながら、その場面で感じられる考え方、感情を出すことができました。 ・ネガティブな言葉をポジティブに言い換える練習では、意味は分かるが、似ている言葉を考えることが難しい様子であった。	・ある事象に対して、生徒の考え方はネガティブに考えることが多かったので、ST、CTの考えを述べると、納得している様子が見られた。	・集団活動では、一言も話さず、その他の生徒と同じ場所に移動することはできたが、積極的であったゲームには、行動することができなかった。その後、グループを分かれた後にゲームを行い、気分転換を行った。その後の話で、体調不良であったと話していた。	Unoでは楽しくゲームを行ってルールを覚え、それが楽しそうに楽しんでいた。その後は来事に対して、どのように認知してみても、ネガティブな言葉しかようであり、教員のポジティブな考え方を身に付けてもらいた		
13		○日常の中で感じるストレス（イライラ、モヤモヤ）を詳細にとらえ、どう対処するかを考える。	○「はあ」というゲームを通し、相手の感情を推測する ○出来事、認知、感情の関連性を知る	○集団活動で、これまでの学習を活用する。	○ゲームを通して、楽しい雰囲気から、適切な言葉でやりとりをする ○正解がない内容について、自分決めたりする		
14		・前回の授業で本人が書いた「イライラした出来事」を短めの質問等を行うことで振り返らせていき、どういう点がイライラした点だったのかを把握するようにする。 ・イライラした時に本人がとった行動を一緒に振り返り、よりよい対処する方法を考える時間にする。	【はあ】というゲームでは、自分が表現者になることが不安だった様子で、解答する活動にも意欲的になれない様子が見られた。不安感をもたないで済むような言葉かけが必要であった。 出来事と感情の間に認知が存在し、そこについては、自分で変えることができるという内容を学習した。	・いつもと違う慣れない場で、どのようにしたらよいか先輩などの様子から学習する	・楽しい体験を通して、人とのコミュニケーションになるようにする。 ・マックのメニューから自分の名前を選ぶ		
		・バイトでの出来事、授業内での出来事、友	【はあ】というゲームでは、自分が表現者にな	・いつもと違う場面に戸惑っている様子で、いつ	・ウノの新しいカードを考案する		

【打ち合わせ記録】

年度	実施回数	訪問支援内容
令和2	1回	授業LSIの観察、授業中の指導や支援に関する助言
令和3	2回	授業LSIの観察、授業中の指導や支援に関する助言
令和4	2回	授業LSIの観察、授業中の指導や支援に関する助言
令和5	3回	授業LSIの観察、授業中の指導や支援に関する助言 教科授業の観察、新規履修予定生徒の実態把握に関わる助言 心理士活用

他校種からの意見・視点は、本校職員に特別支援教育に関する知識を高めるために必要であり、また、特別支援学校の先生方にとっても高等学校における特別支援教育の実態を知る機会になり、お互いにとって有益になると考えている。

f 事例研究

本来、「通級による指導」は個々の特性に応じて履修者それぞれに計画するものであるが、本校では通級による指導を開始した当初から、履修者共通の年間授業計画に沿って指導を行ってきた。ある程度は個々の特性に応じて、実践する手法を変える対応をしていたが、徐々に生徒の実態と指導内容にズレが生じるようになってきた。そのため、ねらい通りに生徒が思考することができず、「ここは、〇〇と書くんだよ」と「伝えるだけの指導」になってしまうことがあった。

令和5年度になると、共通の授業内容と生徒の実態との差が大きくなり、個々に合わせた指導の必要性がさらに高まった。校内研究会において「安心できる環境づくり」「ニーズを把握すること」「新たな指導内容や手立て」などが必要であるという意見を基に、これらをねらいとした事例研究に取り組んだ。

【事例研究の概要】

学期	内容								
1学期	これまで作成してきた年間授業計画の指導を実施しながら、「安心できる環境づくり」を意識した関わり、生徒それぞれの「ニーズを把握すること」に努めた。								
2・3学期	生徒とのやりとりを通して、得た情報を基にこれまで蓄積してきた指導内容からより適した指導内容を選択、または「新たな指導内容や手立て」の作成を行った（一般書籍や他教科の教科書の活用）。 <table border="1" data-bbox="411 1756 1315 1912"> <thead> <tr> <th colspan="2">新たに実施した指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話のかけ方・受け方</td> <td>整理整頓の意義</td> </tr> <tr> <td>クッション言葉</td> <td>時間の計画を立てよう</td> </tr> <tr> <td>アサーション</td> <td>気持ちの言葉を増やそう</td> </tr> </tbody> </table>	新たに実施した指導内容		電話のかけ方・受け方	整理整頓の意義	クッション言葉	時間の計画を立てよう	アサーション	気持ちの言葉を増やそう
新たに実施した指導内容									
電話のかけ方・受け方	整理整頓の意義								
クッション言葉	時間の計画を立てよう								
アサーション	気持ちの言葉を増やそう								

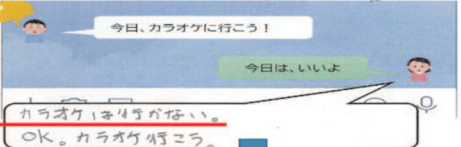
【事例①】安心できる環境づくりのための関わり方の見直し

項目	内容
履修前の生徒のニーズ	本人自身も困っているという事は分かっていたが、何に困っているかを生徒から聞き取ることができなかった。
保護者および担任の願い	人前で話すことが特に苦手で、自己肯定感を高め、進路もうまく決まってほしい
年度初めの通級の授業における反省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肝心の本人のニーズが分からない状況で授業が始まってしまった。 ・ テキスト通りに授業を行っていたことで、一方的に話をしてしまい、教示するという形の授業となってしまった。 ・ 生徒の発言を待たずに同時にいくつか質問をしてしまった。生徒にとっては、何を答えていいか分からず、発言できていなかった。 ・ 過去に行った知能検査の結果を完全に理解できていなかったがために、本人の実態把握に時間がかかってしまった。
通級の取り組み	<p>○ 生徒が学びたいことを把握するため話せる内容を利用し、関係性を築くことからまずは始めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【自分のことを話そう】授業内に20分間（3回実施）興味関心のもてる動物やゲームに関する質問を行い、生徒は話す経験を積む。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知能検査結果の内容から、次のことを意識して関わる。 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 難しい言葉を避ける。 <input type="checkbox"/> 質問は複数続けるのではなく、一個ずつ行うこと <input type="checkbox"/> 質問に答える不安感を減らすために、TTをしているSTに質問をしてから質問に答える見通しを持たせるなどを行うこと
授業内の生徒の様子の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間はかかったが、会話にも変化が現れ、単語から文へと話す内容の変化が見られた。 ・ 次第に教師同士の話を聞きながら、リラックスしている表情も見られた。 ・ 自身の困りに関する質問を受け、生徒から困り事（SNSでトラブルが起きたこと）を話し始めるようになった（生徒が勉強したいこと、つまりニーズを聞くことができた）。
生徒の変化から見たこと、実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のニーズが分かったことにより、当初計画していた内容を、その場で生徒が学びたい内容（SNSなど文でのやりとりにおける適切な言葉選び）に替えて授業を行うことができた。 ・ その後の授業でも、生徒が感じている難しさや学びたいこと、を聞き取ることができ、「ストレスマネジメント」「ポジティブな言葉への言い換え」などについての授業を設定し、実施することができた。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>
事例を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師側の関わり方についての反省をしっかり行うこと。 ・ 週に一回しかない授業の中で、生徒が学びたいことを把握していくためには、まずは話しやすい環境づくりということが大切である。



【事例②】 不安な気持ちを整理して自己理解を深めていく活動

項目	内容
生徒のニーズ	人見知りを直して、いろいろな人と関わられるようになりたい。
保護者および担任の願い、困り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に向けて、円滑なコミュニケーションがとれるようになって欲しい ・ 特定の友人とのやりとりはできているが、授業中、教師の発問に答えられなかったり、自分から周囲とコミュニケーションを取ることがなかったりするという点が憂慮される。
年度初めの通級の取り組み	この授業を通して、「なぜ人見知りなのか」教師と一緒に生徒自身も気付くことができるように様々な活動を設定し、生徒の様子を観察していった。
見えてきた生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽象的な質問や答えが複数あるような内容に対しては、答えが分からないのか考えているのか不明だが、返答ができない。 ・ 答えが決まっている質問（3校時は、何時に終わる？など）や測定距離（何メートル？）については返答ができる。 ・ 発言しなければならぬ状況で困ってしまうと、腕をかく、涙をこぼすといった様子が見られる（不安感を自己コントロールすることができないという生徒の困難さ）。
生物・心理・社会モデルを用いた生徒の分析と支援	<p>○ 生徒の実態を「生徒の安心をどうしたら保障することができるのか」という視点で捉えていった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物的特性として、敏感さをもっている気質から、学校という環境下では、心理的に不安になり、行動が慎重になるのではないかと考えた。 ・ 学校ができる支援として、社会、環境の調整を通して、安を実施した。 <div style="text-align: center;"> <p>生物・心理・社会 (Bio-Psycho-Social : BPS) モデル</p> </div> <p>安心できる環境づくり（支援）【支援例】 「ゲーム活動」 「○で囲んだりチェックを入れたりするプリント」 「クローズドクエスチョン」 「オープンクエスチョンの時は、代弁したり選択肢を設けたり、ヒントを提示したりする」</p>
授業内の生徒の様子の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の支援に取り組み、授業の回数を重ねていくと、少しずつ一緒に学習している教師にも慣れ、この環境なら大丈夫という様子が見られるようになった。 ・ 発言しなくてもコミュニケーションがとれるように環境調整をしたことで、安心した様子で、発言できる場面が出てきた。
事例を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が本人の困り感を自分事として、丁寧な受け止めることは大切である。 ・ 個に課題に対して行える指導は、普段の教科指導では難しいが、通級の時間がとれることは貴重な機会である。

【事例③】新たな指導内容や手立ての検討

項目	内容						
履修前の生徒のニーズ 担任の見立て	コミュニケーションに対しての困り感をもっている様子だが、具体的にどのように困っているか、が明確ではなかった。						
年度初めの通級の取り組み	○ どのような点で困難さを感じているのか、教師だけでなく、生徒自身も気付くことができるように心がけた。 ・ 「生徒自身による気付き」を大切にするために、もう一人の生徒と合同で通級による指導を実施した（他の生徒の回答を聞くことができ、自分自身の言葉や考えを振り返ることが期待できる）。						
授業を通して生徒が感じた自身の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSでの文を介したコミュニケーションを指導の際に、「カラオケに行こう」と誘われた時にどのように断るかという練習の中で、「カラオケは行かない」とぶっきらぼうな回答を考えた。 ・ もう一人の生徒が、やわらかい表現を使っている様子を見る機会があり、そういった言葉がなかなか出てこなかったことに気付いた。 ・ 「相手のことを考えた言葉使いをする必要があるが、適切な言葉を使うのが難しい」といった趣旨の振り返りをしていた。 <div data-bbox="507 952 1353 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>SNSの文を用いた学習</p>  <p>反省</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">目標（意識してできたか： × △ ○ ◎）</td> <td style="text-align: right;">もう少し → できた</td> </tr> <tr> <td colspan="2">SNSなど文面だけのやり取りの中で、誤解が生まれることに気づき適切な表現を考えることができる。 × △ ○ ◎</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"> できたこと（理由） 少しづつやわらかい表現に言葉が 出てきた。 </td> <td style="width: 50%;"> できなかったこと（理由） 考えた言葉に合うように、何が かわらぬ人じゃ無い が思った。 </td> </tr> </table> </div>	目標（意識してできたか： × △ ○ ◎）	もう少し → できた	SNSなど文面だけのやり取りの中で、誤解が生まれることに気づき適切な表現を考えることができる。 × △ ○ ◎		できたこと（理由） 少しづつやわらかい表現に言葉が 出てきた。	できなかったこと（理由） 考えた言葉に合うように、何が かわらぬ人じゃ無い が思った。
目標（意識してできたか： × △ ○ ◎）	もう少し → できた						
SNSなど文面だけのやり取りの中で、誤解が生まれることに気づき適切な表現を考えることができる。 × △ ○ ◎							
できたこと（理由） 少しづつやわらかい表現に言葉が 出てきた。	できなかったこと（理由） 考えた言葉に合うように、何が かわらぬ人じゃ無い が思った。						
生徒の課題に対して、設定した指導内容と生徒の反応	<p>○ 上記の課題に対して、合致する指導が指導モデルになかったため、新たな指導内容や手立てを検討した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【アサーション】（1時間実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分と相手の両方を尊重することが大切であるということ」「上手な断り方の4つのポイント（①気持ちを伝える②理由を伝える③代わりの提案をする④謝る or 感謝する）」を学び、シチュエーションに応じて断る文を考える活動 <p>→「すみませんが」や「ごめん」といった一言を加えることが大切だということに生徒が気付くことができたようだった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【クッション言葉】（1時間実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業科の授業で扱っているビジネスマナーの教科書を参考にクッション言葉に関する具体例を提示、「一言加える」についての演習を行う <p>→自分のアルバイトでの経験をもとに理解を深めたようだった。</p> <p>※ 一般書籍や他教科の教科書をそのまま使わずに、生徒に合わせたプリントを作成し、指導を実践した。</p> </div>						
授業後の生徒の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少しずつやわらかい表現を使って人と話す場面が見られるようになってきている。 						
事例を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の言動をしっかりと見取り柔軟に指導内容を変えていくことが大切であること。 ・ 目の前にあるリソース（他教科、参考文献等）をうまく活用していくことができれば、高校における通級が高校生の実態に合ったものとして機能していくと考えられる。 						

【事例④】興味関心を活かした協働を促すための指導

項目	内容
生徒たちのニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人との関わりを学びたい ・ 働く力を身に付けたい
学校の実情と通級担当の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校には学園祭がない ・ 楽しい雰囲気の中で学習しながら、主体的に考え、協働できる内容の設定
始めに設定した指導内容	<p>○ 履修生を集め、小グループでの学習を実施（LSⅡ）。</p> <p>・ 特別支援学校で行われている授業（作業学習）を参考に「本校教員をもてなす模擬飲食店」を開業する単元を実施。</p> <p>【話し合いをしよう】（2時間実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬飲食店を開業するために必要なものを KJ 法を用いて、意見を出し合った。 ・ 提供するお菓子と飲み物、設置する消毒液やゴミ箱などの物品、練習内容を考え具体的に意見として出し合った。 <p>→はじめは、ヒントを出すことでスムーズに付箋に書き始め、意見を出すことができた。繰り返し取り組んでいくと、的を射た意見を出すことが増えていった。</p> 
生徒たちの意見から設定した指導内容	<p>○ 話し合った内容をもとに、実際に決めたことを実際にやってみる経験を積み、試行錯誤していくような授業を展開した。</p> <p>【借用しよう・制作しよう】（6時間実施）</p> <p>具体的には、話し合っただけ決めた借用するものを職員室に行き、生徒が自ら相談を行ったり、チラシやメニュー表を作ったりする活動を行なった。</p> <p>【練習しよう・営業当日】（練習2時間、営業当日6時間実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 接客の仕方リストに合わせ、接客の練習を行なった。生徒たちは練習している様子の動画を見て、自分の行動を客観的に見たりして、営業当日に備えた。 ・ 営業当日では、通級担当ではない先生方が客として来店し、生徒たちは接客を体験した。 ・ 支援をできるだけ行わず、生徒からの相談を促した。 
生徒たちの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らコミュニケーションをとったり、周囲に気を遣って先回りしたりするなど協力している様子が見られるようになった。 ・ 客として来店した教員からの質問を受け、その対応に苦戦しながら、同級生や授業担当など誰かに頼ること（相談すること）を学ぶことができた。
事例を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒は、褒められると、嬉しそうにしており、日を増すごとに張り切っている様子が見られた。こういった経験を通し、自信につながっているのではないかと考えられる。

【事例研究を通して】

- ・ 生徒の実態から学習内容の一部変更や新たな設定、多様な支援・手立てを検討し、取り入れたことで、個別に最適な自立活動の指導に近づけることができた。
- ・ 授業時の様子、授業外での様子の把握、担任との情報共有、担当者による適切な題材の選択・実施がより大切であることを再認識した。

(3) 履修者の変容(令和4・5年度)履修前と履修後を比較して

生徒	変容
A LS I・II 修得	ストレスの原因を理解し、自分なりの対応策を考えられるようになってきた。体調不良にならないよう事前に生活の仕方を管理できるようになった。
B LS I・II 修得	HR でも不特定のクラスメイトともコミュニケーションをとっている姿が見られるようになった。
C LS I 修得	過去の自分の行動を振り返られるようになり、相手にどう思われるかを考えながら行動しようとする意識が芽生えてきた。
D LS I・II 修得	他者と関わるときに緊張してしまうことを理解するようになった。また、緊張してしまった時にどう行動するかを自分なりに考えることができた。
E LS I・II 修得	場や人を考えながら、適切な言葉を選択し、話すことができるようになってきた。
F LS I・II 修得	話し合い活動の場で、意見を求められて答えたり友達の冗談を聞いて笑ったりすることができ、小集団の輪に入って活動することに慣れてきた。
G LS I・II 修得	自信のないときは、ごまかすことが多かったが、周りを頼り相談することが増えてきた。
H LS I 修得	これまで相手に説明することはなかったが、時間の管理や周囲の目など自分の困りを具体的に説明できるようになってきた。
I LS I 修得	教師に対して、今までは反応が頷くだけだったものが、言葉を発したり、文章化したりして、反応できるようになってきた。
J LS I 修得	心理的に負荷がかかった際の反応行動によって自身が安定することを理解している。また、以前よりもその反応が小さくなっている。
K LS I 修得	自分の言動について振り返ることができるようになり、相手のことを考えた適切な行動をとろうとする様子が見られるようになった。
L LS I 修得	自分の感情を理解し、自ら伝えられるようになった。また、相手の感情を理解し、自分に当てはめて行動する様子も見られた。

4 今後の課題と計画

(1) 生徒に応じた支援・指導について(年間授業計画)

(課題①) 生徒に合わせた適切な指導内容の選択・作成

個々に特性や教育的ニーズの異なる生徒にとって、年間授業計画通りの授業が本当に役に立つものになっているのかを考える必要がある。それに伴い、指導内容の適切な選択と新たな指導内容の作成が求められる。

(今後の計画①)

- ・ 個々に合わせた指導を行うためには、「履修前の正確な実態把握(本人・保護者の教育的ニーズも含む)」「的確な目標設定」を行い、「目標を達成するための指導内容の設定」「目標を達成するための手立て・支援の実施」「学習に対する評価」「学習後の実態把握」「さらなる目標設定」…を繰り返す、この一連の流れが途切れないような

仕組み作りを行っていく。

(課題②) 活動内容の精選

行動を通して認知を変えるためにロールプレイのような活動の時間を多く設定し、体験を伴う学習を取り入れる工夫が必要である。しかし、個別ではなく生徒2名ずつのペアの授業を実施したパートの場合、体験活動（ロールプレイ）の時間の十分な確保は難しくなる。

(今後の計画②)

- ・ 各単元のねらいの再設定や活動内容の精選が必要になってくる。また、ペアまたは小集団の学習の場合、同じ授業内でも授業のねらいが異なることがある。常にペアまたは小集団の授業にするのではなく、個別の時間を設定することも検討する。

(2) 評価、生徒の変容について

(課題③) 自己評価アンケートの再検討

年間指導モデルの内容に関連付けて自己評価アンケートを作成したが、アンケートの質問項目が生徒によっては合わないところもある。

(今後の計画③)

- ・ 質問項目については、年間指導モデルのものをベースとしながらも、個々の生徒の特性等に応じて修正を加え、さらに自立活動6区分と関連付けることで、自己評価と客観的評価との差を埋められるようにしたい。

(課題④) 授業内だけにとどまらない生徒の変容の支援と課題の実態把握

これまでの履修者は、2年間のLSの学習を通して、小さな変容ではあるが、少しずつ自己理解が深まり、「他者に頼る」「計画的に物事に取り組む」「人と関わることの楽しさを感じる」といった様子が見られるようになってきている。しかし、LS内だけではなく、日常生活全般に般化していかなければならない。

また、成長の一方で、新たな課題が浮き彫りになることもあり、その課題を生徒の担任や授業担当者が把握し、指導を行うことが重要となる。例えば、他者とコミュニケーションをとりたいと思うようになってきた生徒が、間違った関わり方をしてしまうと、さらなるトラブルにつながるケースが考えられるので、その対処や新たなニーズに対する支援を考える必要がある、といった具合である。

(今後の計画④)

- ・ 特別支援教育コーディネーターと連携し、学校全職員に対し、「通級による指導」の指導の様子や教科・HRなどその他の場面の情報共有を図っていききたい。

(3) 就労に向けた取り組みについて

(課題⑤) 多様な職種におけるインターンシップの企業

LSⅡでは、履修生徒が適切に進路実現することを1つの目標としている。そのためには、インターンシップといった実際に体験できる機会を設定し、得手不得手、向き不向きを含め、特性や就労についての情報を生徒自身が認識することが必要である。

(今後の計画⑤)

- ・ 進路指導部と連携して、協力してくださる企業や福祉事業所などの開拓・確保を今後も続けていく。

(課題⑥) 卒業後の進路・支援

卒業後もつながりのある支援が受けられるよう、卒業後を見据えた指導をしていく必要がある。

(今後の計画⑥)

- ・ 本校を卒業し、社会に出ても支援を受けられるように外部機関とのつながり方を生徒・保護者に伝えていかなければならない。障害者雇用、福祉サービスを利用するといった福祉就労など、様々な状況においてどの外部機関との連携が良いのかを今後も模索していくことが重要である。

(4) その他の課題

(課題⑦) 中学校への説明

本校に入学してくる中学生とその保護者が本校の通級指導に関する情報を得るには中学校教職員を通じた共有が最も端的で有効な方法であると考えられる。しかし、本校の通級による指導について十分認識されずに、義務教育段階での通級指導と同様の指導を受けられるという誤解を招き、場合によっては進路選択を誤らせてしまう危険性がある。

(今後の計画⑦)

- ・ 本校の「通級による指導」は、1つの授業の中で生徒が学校生活および卒業後の生活をより良くしていくための自立活動の指導を行っている。また、高校は特別支援学級と比べ、生徒と関わる時間に限られている。これらの情報を正確に中学生及びその保護者に理解してもらうためにも、本校の通級指導について中学校教職員に説明する機会を増やしていきたい。

(課題⑧) 通級指導を受けさせたい生徒が必ずしも全員履修しているわけではない

本人・保護者の同意がなければ履修につながらないケースもあり、現在の履修者以上の困難を抱えているが履修していない生徒がいる。実際はこういった生徒への対応・進路指導に教員は苦慮している。通級による指導の授業には興味・関心があっても、「生徒・保護者に特性等への困り感がない」「外部機関との連携という高いハードルがある」

「特別な個への指導を求めている」「個別の教育支援計画の作成」などの理由から履修につながらないケースが多い。通級による指導の履修は、生徒・保護者両者の希望が前提の上に、生きづらさや特性の認識というデリケートな問題が絡んでいるため、一朝一夕には解決できない課題となっている。

(今後の計画⑧)

- ・ 授業や実践報告、学校 HP、個別懇談などを通じての情報提供といった地道な積み重ねが、やがては「指導を必要としている生徒へ指導が届く」ことを期待し、今後も丁寧な説明を継続していく。

5 研究のまとめ

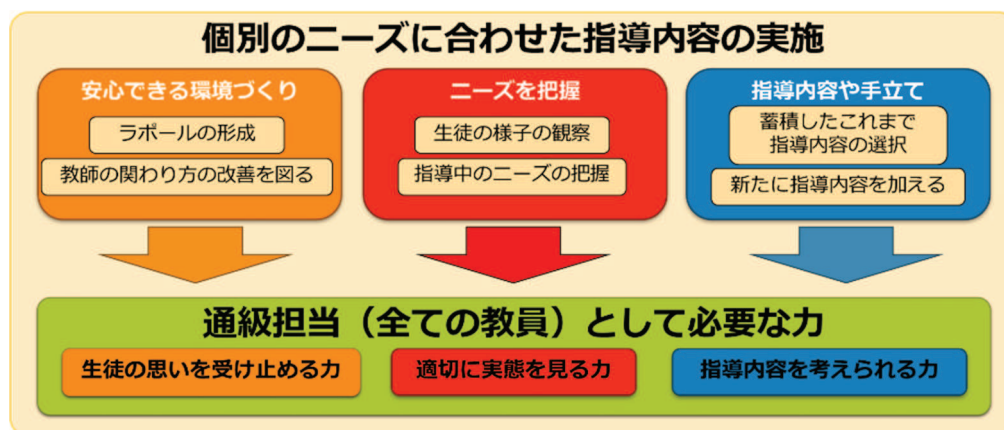
(1) 「通級の理想と教師の資質」

本校は現在、一律の指導モデルを一部使いながら、個々の実態に合わせて指導内容を変えているといった状況である。

しかしながら、通級による指導は、事前に指導内容を計画しつつも、その日のニーズ（気持ち）に合わせて、柔軟に授業を変更できることが理想である。

そのためには、今回の研究を通して、「適切に実態を見る力」「指導内容を考えられる力」「生徒の思いを受け止められる力」が最も大切であると感じている。

それらは、通級の担当ではない、すべての先生方にも求められていることなのかもしれない。



(2) 「教科指導・担任と通級指導を兼務すること」

本校通級の担当は、教科・担任を兼務している。所属年次や教科、年齢など多様な先生方の話を通級の打ち合わせの中で聞くことで、新たな考え方、有効な手立てなどの情報を共有しスキルアップにつながっている。「数学の時、こんな様子だったな」「HRでは、まだまだ学んだことを活かしてなさそうです」「最近、相手に対する声掛けが優しくなった」というような情報が行き交うこともあり、次にどんな指導を組むかを考えられやすいのではないかと考える。

(3) 「通級のいいところ」

「他人から見た自分は、こんな感じなんだとちょっとわかった。」これは卒業した履修者の言葉である。この授業を通して、「自分は、こんな人なんだ」という自己理解ができたという感想であったと感じている。効果としては微々たるものではあるが、大きな変化が起こるきっかけになるかもしれない。

何よりも通級を受けようという意志を持てたことが大きな前進である。日頃の担任の先生方の生徒との関わりがあって、「通級による指導」の履修と意欲につながっている。

通級による指導で取り扱う内容の中には、教科では学ぶことができないことが多い。そういったことを普通の授業ではない形で学ぶことができる場が、高校に存在することは良いことと言えるのではないだろうか。

(4) 最後に

次年度も継続して、研究を進めていき、通級による指導と合わせて本校の教育環境の中で取り組める特別支援教育の充実を模索する。4年間の研究指定期間にとどまらない「持続可能な通級指導運営」のためにも、各方面との連携は、必要不可欠である。関係各方面の一層のご理解とご協力を切に願う次第である。

6 その他（参考文献など）

- 文部科学省編（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版
- 柘植雅義・石隈利紀（2014）『高等学校の特別支援教育 Q&A：親・教師が知っておきたい70のポイント』金子書房
- 渡辺弥生・原田恵理子編（2019）『中学生・高校生のためのソーシャルスキル・トレーニング：スマホ時代に必要な人間関係の技術』明治図書出版
- 宮田愛（2019）『教師のための対人関係トレーニングサポート集 TTST：発達障害のある子供への対人関係トレーニングに取り組む教師を支援』ギアース教育新社
- 上野一彦・岡田智（2010）『特別支援教育〔実践〕ソーシャルスキル マニュアル』明治図書出版
- 岡田智・三浦勝夫・渡辺圭太郎・伊藤久美・上山雅久（2012）『特別支援教育 ソーシャルスキル実践集：支援の具体策 93』明治図書出版
- 東京都立青峰学園（2016）『ひとりだちするためのライフキャリア教育：豊かな自立生活への第一歩』日本教育研究出版
- 関口トシコ（2017）『ひとりだちするための進路学習：あしたへのステップ』日本教育研究出版
- 子どもたちの自立を支援する会（2016）『ひとりだちするためのビジネスマナー&コミュニケーション』日本教育研究出版

- 子どもたちの自立を支援する会（2016）『改訂版ひとりだちするためのトラブル対策：予防・回避・対処が学べる』日本教育研究出版
- 平木典子（2018）『マンガでやさしくわかるアサーション』日本能率協会マネジメントセンター
- 小関俊祐・高田久美子・嶋田洋徳・杉山智風・新川瑤子・一瀬英史・大谷哲弘・山本奨、
（2020）『自立活動の視点に基づく高校通級指導プログラム認知行動療法を活用した特別支援教育』金子書房
- NPO フトゥーロ LD 発達相談センターかながわ（2021）『あたまと心で考えよう SST ワークシート：思春期編』かもがわ出版
- 青島矢一ほか（2022）『ビジネス基礎』実教出版
- 高橋則雄・小林猛久ほか（2022）『ビジネス・コミュニケーション』実教出版
- 実教出版編（2018）『高校生からのビジネスマナー』実教出版
- 大竹直子（2018）『教室で保健室で相談室ですぐに使える！とじこみ式自己表現ワークシート』図書文化社
- 高山恵子（2020）『やる気スイッチを ON！実行機能をアップする 37 のワーク』合同出版
- 濱野智恵（2023）『学校生活をもっと楽しく！中高生のための SST ワーク学校生活編』学事出版
- ジョージ・エンゲル（1977）『生物・心理・社会（BPS）モデル』
- 国立特別支援教育総合研究所（2018）『高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブックおさえておきたい 8 つの課題と課題解決のための 10 のポイント』
- 国立特別支援教育総合研究所（2020）『高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブックおさえておきたい Q & A』
- 文部科学省（2020）『初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド』
- 山梨県教育委員会（2017）『教職員のための「通級による指導」ガイドブック』
- 山梨県教育委員会（2018）『教職員のための「通級による指導」ガイドブック 2～通級による指導と通常の学級との連携～』
- 文部科学省（2022）『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』